

# 第1章 近代化産業遺産保存活用の経緯・動きの整理

## 1. 新居浜市の近代化産業遺産に関する過去の調査・計画

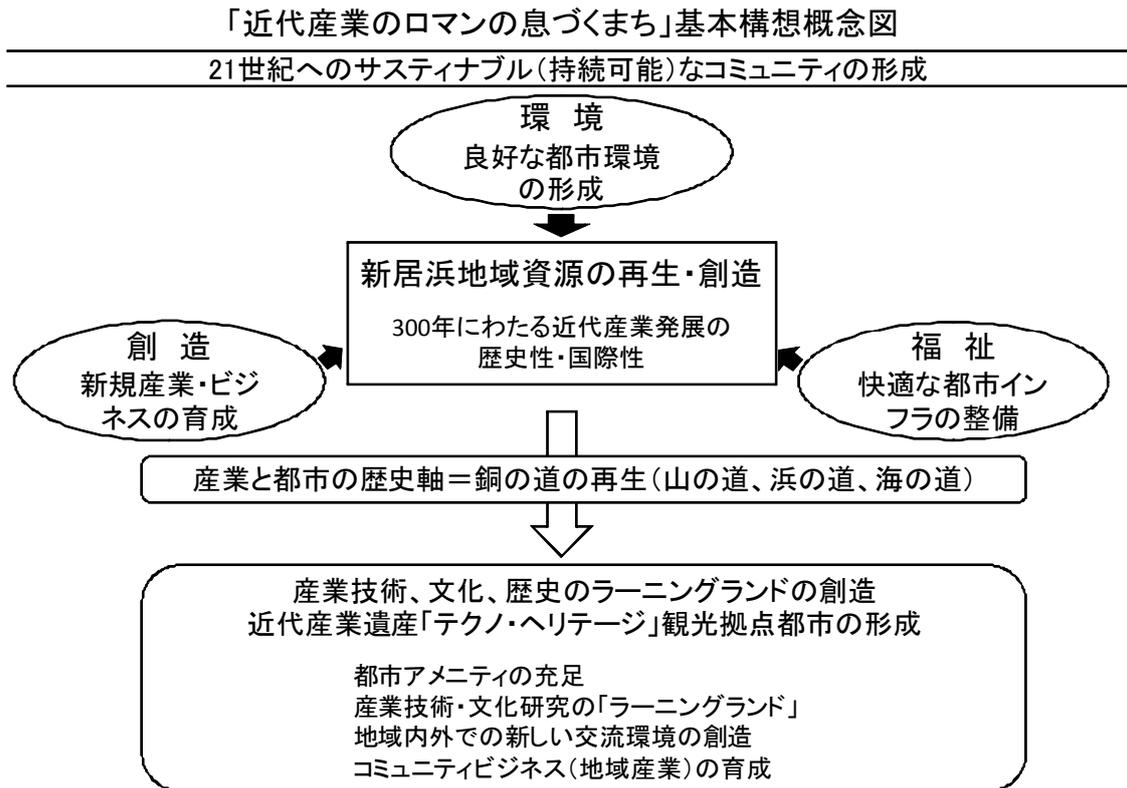
### (1) 過去の調査・計画一覧

- 新居浜市近代産業遺産・銅の道 活用調査研究報告書  
1997年（平成9年）10月 - 新居浜市 - （財団法人日本経済研究所）

#### □調査の目的

別子銅山近代化産業遺産\*の歴史的意義を理解し、生きた博物館都市を実現するために銅の道を整備するための基礎的な調査を行い、産業遺産の保存活用を提案している。

#### □「近代産業のロマンの息づくまち」基本構想



#### □銅の道および近代産業遺産保存・活用の整備事業について

##### 【口屋（新居浜分店）の整備】

- ・コミュニティ広場の整備。
- ・口屋（新居浜分店）の再生。
- ・コミュニティ広場から市街地へのパークウェイ（公園道路）整備。

【白水丸の再生】

- ・一般船舶の復元。
- ・口屋コミュニティ広場に再現。

【端出場水力発電所】

- ・銅関連製品の工房およびギャラリー。
- ・端出場水力発電史料館。

【星越西洋館】

- ・史料館、工房、休憩施設。

【星越駅舎】

- ・鉱山鉄道史料館。

【マイントピア別子】

- ・散在する産業遺産への案内板などの設置。

■ 「多様な主体の参加と連携による活力ある地域づくりモデル事業報告書」  
～知の博物館都市づくり構想策定調査（愛媛県新居浜市）～  
2001年（平成13年）3月（財団法人自由時間デザイン協会）

□調査の内容

別子銅山近代化産業遺産の活動がほぼ15年を経過し、多様な主体の交流とネットワーク化が課題として認識され始めた。多様な主体の連携・協力のキーワードとして「知の増殖する博物館都市」の具体的な事業化を目的としている。

□知の博物館都市づくりのモデル事業

- ・別子銅山関連産業遺産のモデル学習講座。
- ・炭焼き教室の開催。
- ・別子銅山関連産業遺産展・写真展の開催。
- ・別子銅山関連産業遺産学習市政だよりの発行。
- ・中学生によるインターネットホームページの作成。

□知の博物館都市づくりのための中長期計画（資源活用アクションプログラム）

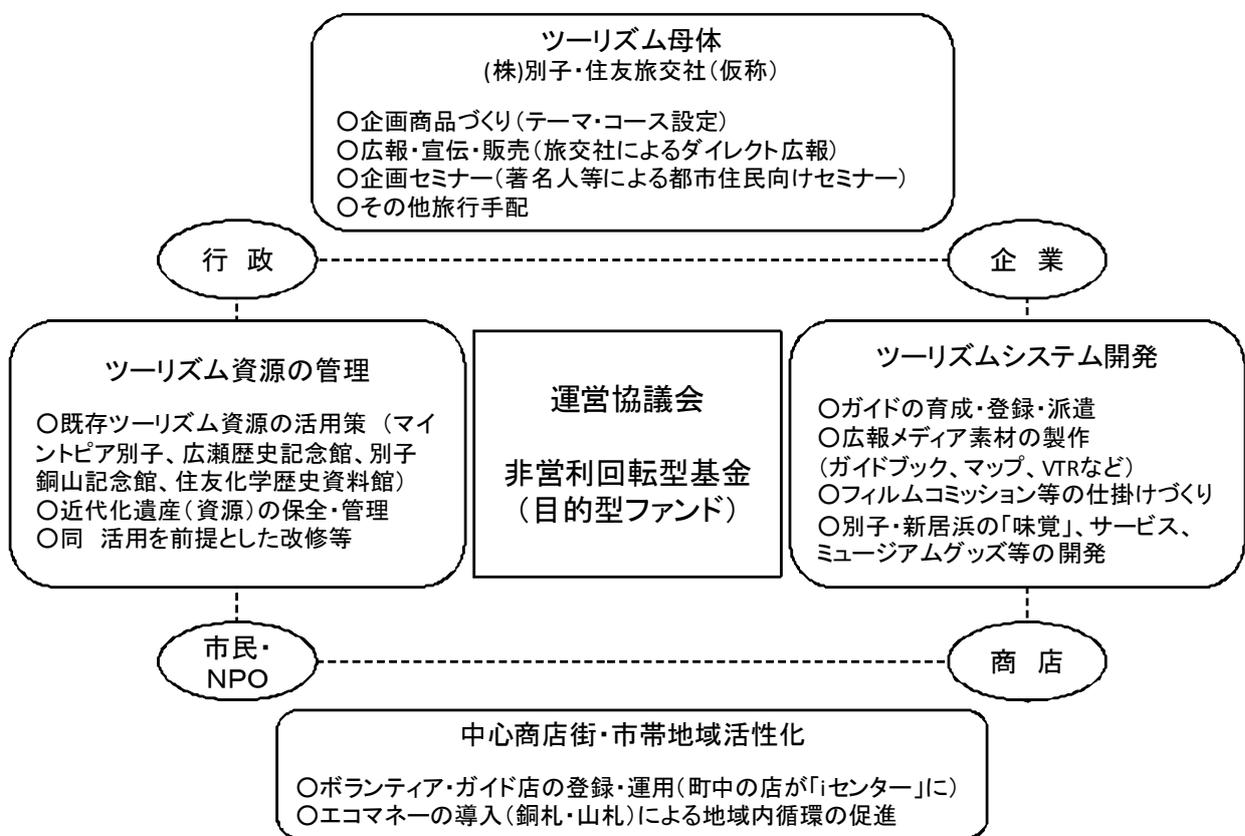
- ・新居浜学の体系化。
- ・資源を活かす体制（組織）づくり。
- ・資源を活かす人づくり。
- ・人が集う楽しいまちづくり。
- ・ジオ・ミュージアム\*の語り部づくり。
- ・新しい産業創造・ブランドづくり。
- ・他都市との交流・連携。
- ・新しいインフォメーションシステムの開発と活用。

■ 別子銅山産業遺産 活用モデル基本計画策定調査報告書 2002年（平成14年）3月  
 —別子銅山産業遺産活用モデル基本計画策定委員会—（財団法人自由時間デザイン協会）

□策定調査の内容

別子銅山産業遺産を活用した観光視点でのまちづくりの観点から、別子銅山の素材を活かした新居浜モダンヘリテージツーリズム\*事業構想を提案している。

□別子・新居浜モダンヘリテージツーリズム事業の骨格



(2) 参考となる調査資料

文化財に資する調査など。

■近代遺跡調査報告書	2002年（平成14年）1月	（文化庁）
■愛媛県の近代化遺産（愛媛温故紀行）	2003年（平成15年）3月	（愛媛県）
■愛媛県の近代和風建築	2006年（平成18年）3月	（愛媛県教育委員会）
■別子銅山が育んだ山田社宅現況調査報告書	2010年（平成22年）3月	（新居浜市）

## 2. 近代化産業遺産を取り巻く動き

### (1) 経済産業省「近代化産業遺産群33」

#### □近代化産業遺産群の経緯

近代化産業遺産が持つ価値をより顕在化させ、地域活性化に役立てることを目的としている。

平成 19 年 4 月	産業遺産活用委員会を設置
平成 19 年 11 月 (平成 19 年度)	「近代化産業遺産群 33」公表 575 ヶ所認定
平成 21 年 2 月 (平成 20 年度)	「近代化産業遺産群 続 33」公表 540 ヶ所認定
平成 21 年 2 月 (平成 20 年度)	「近代化産業遺産の活用のために 産業遺産保存・活用好事例集 33<私ならこうする>」公表
平成 22 年 3 月	「近代化産業遺産<観光>活用ガイド」公表

#### □別子銅山の認定

ストーリー30 「地域と様々な関わりを持ちながら我が国の銅生産を支えた  
瀬戸内の銅山の歩みを物語る近代化産業遺産群」

【構成遺産リスト一覧表】

○別子銅山関連遺産 (34 施設)		
歓喜坑跡	歓東坑跡	第一通洞跡
第三通洞跡	日浦坑跡	東延斜坑跡
大斜坑跡	第四通洞跡	筏津坑跡
小足谷接待館跡	小足谷劇場跡	小足谷酒造所(醸造所)跡
小足谷小学校跡	上部鉄道跡	東平第三変電所跡
マイントピア別子東平ゾーン (東平貯鉱庫跡・東平選鉱所 跡・保安本部跡等)	東平歴史資料館の所蔵物	マイントピア別子端出場ゾーン (打除鉄橋・中尾トンネル等)
旧端出場水力発電所	遠登志橋	牛車道
立川中宿(立川精錬所跡)	別子銅山記念館の所蔵物	山根製錬所跡煙突
山根グラウンド石積	旧広瀬邸	広瀬歴史記念館の所蔵物
下部鉄道跡	星越西洋住宅、所長宅等	住友倶楽部
旧住友銀行 (住友化学歴史資料館)	「總開之記」碑	旧別子病院
口屋跡とあかがねの松		
○吉岡銅山関連遺産(笹畝坑道、吉岡銅山遺跡、ベンガラ館)		
○犬島精錬所関連遺産(犬島精錬所)		

□活用事例

「近代化産業遺産の活用のために 産業遺産保存・活用好事例集 3 3 <私ならこうする>」

愛媛県立新居浜南高校・情報科学部（現ユネスコ部）の「あかがねプロジェクト」の活動

- ・産業遺産の保存・活用に向けた認識及び取組の裾野を広げるためには、学校教育の場で若年層への普及を図ることが効果的である。
- ・愛媛県立新居浜南高校では、情報科学部の生徒が地元の別子銅山について調査研究を行い、その成果をインターネット等で公開している。
- ・生徒の自主的な活動が契機となり、地域内外で「人と人のつながり」が生まれ、遺産の保存・活用に向けた実践活動に結びついている。



観光ボランティアガイド講座の様子



ホームページ

「別子銅山をインターネットで甦らせよう！」



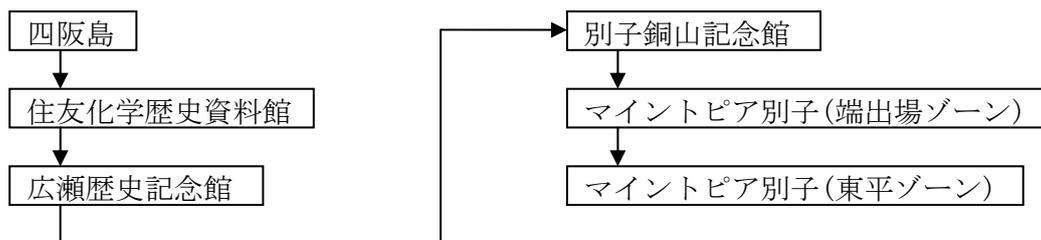
地域の人々へのインタビュー映像



携帯電話版  
ガイドブック

□モデルコース

別子銅山は「東洋のマチュピチュと四国の要塞を巡るルート」としてモデル化されている。



別子銅山近代化産業遺産群 3 3 位置図  
A 4 図面挿入

## (2) 近代化産業遺産全国フォーラム

### □フォーラムの概要

「ふりむけば未来！世紀を超えて」を合言葉に  
「近代化産業遺産全国フォーラム」が開催された。

日時：平成12年（2000）8月18日～20日の3日間  
会場：リーガロイヤルホテル新居浜  
主催：近代化産業遺産全国フォーラム実行委員会・愛媛県・新居浜市  
別子山村・（社）研究産業協会  
協賛：財団法人 愛媛縣市町村振興協会  
後援：文化庁・通商産業省・自治省・国土庁・環境庁  
（財）日本ナショナルトラスト・全国近代化産業遺産活用連絡協議会  
（財）自由時間デザイン協会（各機関の名称は開催当時）

### □フォーラムの目的

我々の先人が残した300年の世界に誇り得る近代化産業遺産に、もう一度視点を当て、まちづくりの原動力とするための保存や活用といった継承活動を、今後どのようにしていくかを議論することを目的とし開催された。

### □フォーラムの特徴

- ・「産業遺産の継承運動」と「産業遺産の保存活用運動」を合わせたフォーラム。
- ・全国各地の活動事例報告の場を設けるなど活発な交流促進に配慮した。
- ・新居浜市、別子山村、越智郡宮窪町という広範囲に分布する別子銅山関連産業遺産の現地視察を6コースに分けて設定し、案内をボランティアガイドが行った。
- ・別子銅山関連産業遺産の多くを所有する住友企業各社の積極的な協力が得られた。
- ・愛媛県、新居浜市、別子山村、（社）研究産業協会が資金負担を行うと伴に主催者となり、多くの省庁、関係団体が後援を行い、盛り上げと支援を行ってくれた。
- ・高校生など時代を担う層の主体的な参加があった。  
（新居浜南高校情報科学部の地域への聞き取り調査やホームページ製作の報告）

### □フォーラムを終えて

平成12年度国土庁「多様な主体の参加と連携による活力ある地域づくり」のモデル事業として、産業遺産を活用した「知の増殖する博物館都市」を目指すアクションプログラムに取り組んでいる。

また、愛媛県は愛媛文化遺産のモデルとして位置づけている。

### (3) 全国近代化産業遺産活用連絡協議会新居浜大会

#### □大会概要

「未来への鉱脈～近代化産業遺産・ルネサンス～」が開催された。  
(新居浜市市制施行 70 周年記念事業)

日時：平成 19 年 (2007) 7 月 5 日～6 日の 2 日間 会場：新居浜市民文化センター 中ホール 主催：全国近代化遺産活用連絡協議会・新居浜市 協賛：新居浜市広瀬歴史記念館 後援：文化庁・国土交通省・経済産業省・愛媛県教育委員会 助成：芸術文化振興基金
--

#### □近代化遺産の歴史的意義 住友史料館副館長 末岡照啓

大会記念講演にて別子銅山遺産群の歴史的意義について地域づくりの上で文化的価値を高めることの重要性を指摘。

- 【別子銅山の歴史的意義】
- ・世界的に知られた鉱山の産業遺産。
  - ・わが国の産業革命を雄弁に物語る産業遺産。
  - ・21 世紀の環境問題を先取りした産業遺産。
  - ・都市計画を物語る産業遺産。
  - ・地下に眠る 300 年の産業遺産。

### (4) 金銀銅サミット in 新居浜

#### □サミットの概要

日時：平成 20 年 (2008) 5 月 10 日 会場：新居浜市民文化センター 中ホール 主催：新居浜市 協賛：財団法人 愛媛県市町村振興協会 後援：愛媛県、愛媛県教育委員会、新居浜市教育委員会、新居浜商工会議所、 (社) 新居浜観光協会、新居浜ロータリークラブ、新居浜南ロータリークラブ
---

#### □サミットの主旨

平成 18 年 5 月に奈良文化財研究所主任研究官の村上隆氏 (石見銀山資料館館長) の提唱により、日本を代表する鉱山の歴史を持ち世界遺産を目指している金鉱山を代表する佐渡市、銀鉱山を代表する大田市、そして銅鉱山を代表する新居浜市の市長が一同に会する「金・銀・銅サミット」が大田市で開催された。平成 19 年 5 月には、佐渡市で 2 回目が開催され平成 20 年、第 3 回を新居浜市で開催した。

この間石見銀山遺跡が世界遺産となり、ますます鉱山の産業遺産が全国的に注目されている。今後の 3 市の関係、連携をより強化にしていき鉱山都市の産業遺産を活用した取り組みを広域でも考えていく。

## (5) 別子銅山閉山後の産業遺産活用の動き

- 1975 (昭和 50 年) 別子銅山記念館開館
- 1976 (昭和 51 年) 別子銅山鉄道跡自転車・歩行者道路開通
- 
- 1977 (昭和 52 年) [市制施行 40 周年](#)
- 1980 (昭和 55 年) [新市庁舎落成](#)
- 1981 (昭和 56 年) [郷土美術館開館](#)  
[第 2 次新居浜市長期総合計画スタート](#)
- 1984 (昭和 59 年) [核兵器廃絶都市宣言](#)
- 1985 (昭和 60 年) [別子ラインが四国 20 景 \(四国郵政局\)・四国の自然 100 選 \(朝日新聞、財森林文化協会\) に選ばれる](#)
- 1986 (昭和 61 年) [新居浜青年会議所「銅 \(懂\) 景のまちづくり」「生涯技術ふれあいタウン」を提案](#)
- 
- 1987 (昭和 62 年) [市制施行 50 周年記念式典](#)  
[健康都市宣言](#)
- 1988 (昭和 63 年) (株)マイントピア別子創立  
銅山の里「自然の家」開所 (東平小学校・中学校跡)  
銅の道にポケットパーク整備しモニュメント設置開始 (~1993 年)
- 1989 (平成元年) [\(社\)新居浜市観光協会設立](#)
- 1990 (平成 2 年) 別子開坑 300 年記念式典  
別子銅山産業文化フォーラム  
旧住友銀行新居浜支店の建物を住友化学工業愛媛工場歴史資料館として開設  
[第 3 次新居浜市長期総合計画スタート](#)
- 1991 (平成 3 年) マイントピア別子端出場ゾーンオープン (端出場採鉱本部跡)  
泉寿亭移築
- 1992 (平成 4 年) 別子銅山記念図書館開館  
山根公園開園  
[新居浜市高齢者憲章制定](#)
- 1993 (平成 5 年) 大造林計画樹立 100 周年記念「住友の森エコシステム =フォレスターハウス=」開設  
自転車・歩行者専用道(西の土居~滝の宮線)1,600m 完成  
[人権尊重都市宣言](#)
- 1994 (平成 6 年) マイントピア別子東平ゾーンオープン  
山根総合運動公園完成 (川口新田社宅跡)  
[愛媛県総合科学博物館開館](#)
- 1995 (平成 7 年) 自転車・歩行者専用道西の土居~滝の宮間開通
- 1996 (平成 8 年) 近代の文化遺産の保存・活用に関する調査研究協力者会議「近代の文化遺産を文化財として保護すべきである」文化庁が近代化遺跡調査を開始  
市民ミュージカル「銅山 (たから)こそあなた」上演
- 
- 1997 (平成 9 年) [市制施行 60 周年記念式典挙行](#)  
[生涯学習都市宣言](#)  
広瀬歴史記念館開館
- 1999 (平成 11 年) 「住鉄ふれあい倶楽部」設置  
「マイントピアを楽しく育てる会」発足  
写真集「未来への鉱脈」発行

- 2000 (平成 12 年) 近代化産業遺産全国フォーラム開催  
男女共同参画都市宣言  
ゆらぎの森(別子山)開園
- 2001 (平成 13 年) 伊庭貞剛没後 75 周年記念碑建立(住友の森エコシステム=フレスターハウス=)  
住友化学工業愛媛工場歴史資料館(旧住友銀行新居浜支店)が国の登録有形文化財となる  
歓喜坑、歓東坑復元  
愛媛県が愛媛県近代化遺産総合調査を実施  
第 4 次新居浜市長期総合計画スタート
- 2002 (平成 14 年) 「近代遺跡調査報告書=鉱山=」文化庁  
鉱山地蔵菩薩立像、圓通寺棟札が市指定の歴史資料となる  
市制施行 65 周年
- 2003 (平成 15 年) 広瀬幸平の銅像が復元される(広瀬歴史記念館)  
旧広瀬邸が国の重要文化財に指定される  
「愛媛県近代化遺産」愛媛県県民環境部  
三翁展開催(新居浜まちおこし委員会)  
宇摩郡別子山村を編入合併  
合併記念イベント(山根グラウンド・マイントピア別子・別子山)開催
- 2004 (平成 16 年) 愛媛県教育委員会が近代和風建築総合調査を実施  
広瀬家墓所が市指定の史跡となる
- 2005 (平成 17 年) 遠登志橋が国の登録有形文化財に登録される  
「別子の山から四阪島へ」シンポジウム開催  
自転車・歩行者専用道(滝の宮～土橋間)1450m 完成
- 2006 (平成 18 年) 「近代化産業ロマンの息づくまちづくり」  
産業遺産説明板を設置  
(平成 18 年度から 3 年間で 30 ケ所、住友グループ設置の説明板と併せて市内 61 ケ所)  
「愛媛県の近代和風建築」愛媛県教育委員会  
「別子銅山及びその関連施設」がヘリテージング 100 選(毎日新聞)に選ばれる  
別子山地域バス定期運行開始
- 
- 2007 (平成 19 年) 市制施行 70 周年式典挙行  
「別子銅山文化遺産課」設置  
全国近代化産業遺産活用連絡協議会新居浜大会  
「未来への鉱脈～近代化産業遺産・ルネサンス～」開催  
別子銅山産業遺産が経済産業省の「近代化遺産 33」に認定される  
広瀬公園整備完了
- 2008 (平成 20 年) 「とっておきの新居浜検定」試験実施(第 1 回)新居浜商工会議所  
「あかがね基金」設置  
「金、銀、銅サミット in 新居浜」開催
- 2009 (平成 21 年) 旧山根陸上競技場石積、旧山根製錬所煙突、端出場鉄橋(足谷川橋梁)、  
端出場隧道(中尾トンネル)が国の登録有形文化財に登録される  
協働事業「山根大通りストリートミュージアム」開催
- 2010 (平成 22 年) 旧端出場水力発電所の市への寄贈  
マイントピア別子リニューアルオープン  
旧山根製錬所煙突倒壊防止工事、周辺整備
- 2011 (平成 23 年) 旧端出場水力発電所が国の登録有形文化財に登録される  
旧端出場水力発電所周辺整備

### 3. 近代化産業遺産活用事例の比較

#### (1) 世界遺産石見銀山（島根県大田市）

世界遺産登録「石見銀山遺跡とその文化的景観」（島根県大田市）

2007年（平成19年7月）登録

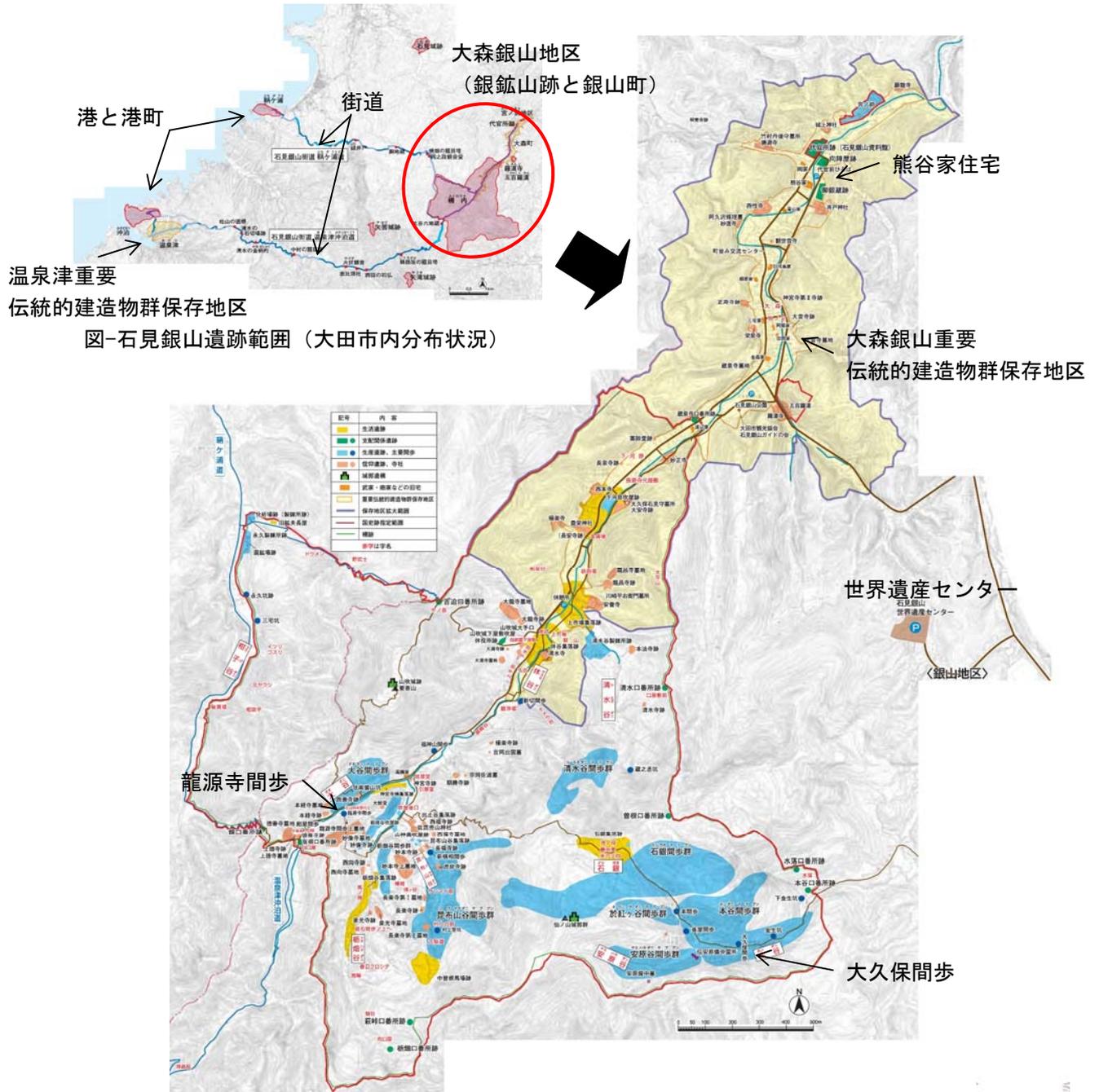


図-大森銀山地区の遺跡地図  
(石見銀山遺跡とその文化的景観より編集)

\* 石見銀山世界遺産センターHPより引用

## □概要

### 【世界遺産】

世界遺産とは、1972年のユネスコ\*総会で採択された「世界遺産条約」に基づいて、世界遺産リストに記載（登録）された、世界的に「顕著な普遍的価値」をもつ記念物、遺跡、自然の地域など、国家や民族を超えて未来世代に引き継いで行くべき人類共通のかけがえのない地球の『自然』や人間によって創造された『文化』の遺産のことです。

世界遺産の登録には、世界的に顕著な普遍的価値を有すること、世界遺産の登録基準を満たすこと、保護・管理措置が講じられている必要があります。

世界遺産登録 文化遺産 厳島神社、平泉など 12 地区登録（平成 23 年 2 月現在）  
自然遺産 小笠原諸島、知床など 4 地区登録（平成 23 年 2 月現在）  
暫定一覧表記載 九州・山口の近代化産業遺産群など 12 件（平成 23 年 2 月現在）

### 【石見銀山遺跡】

石見銀山遺跡は、銀の採掘から精錬、運搬・積み出しに至る鉱山経営の総体を表す「銀鉱山跡と鉱山町」、「港と港町」及びこれらをつなぐ「街道」で構成されている。その総体が良好な状態で残り、かつ、周辺の自然環境と共生している。また、2ヶ所（温泉津、大森銀山）重要伝統的建造物群保存地区を含んでいる。



写真-温泉津重要  
伝統的建造物群保存地区



写真-大森銀山重要  
伝統的建造物群保存地区



写真-熊谷家住宅

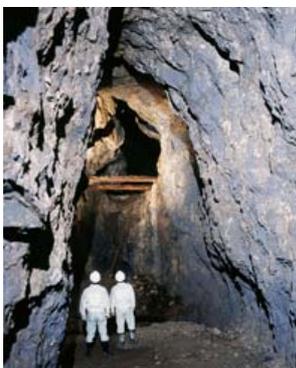


写真-大久保間歩



写真-龍源寺間歩入り口

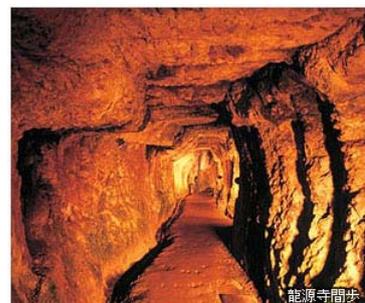


写真-龍源寺間歩

\*写真出典：石見銀山世界遺産センターより  
大田市及び大田市教育委員会より

## □まちづくりの取り組み

### 【市民、NPO\*団体】

#### ○「石見銀山ガイドの会」

平成 12 年 4 月、地元の有志によって結成。平成 20 年会員 65 名。当初、無償のボランティアガイドとして活動していたが平成 18 年より有償化。ガイドの担い手を確保する為に、養成講座を開講している。 \*石見銀山ガイドの会HPより引用



写真-石見銀山ガイドの会

#### ○「大森町文化財保存会」

1957 年(昭和 32 年)に大田市大森町に存在する文化財の保存を目的とした保存会として大森町民数人のメンバーを中心として発足。

「大森町の町並みの保存のあり方の検討」「町おこし活動の先進事例調査(研修視察)」「大森町内の一斉清掃」に取り組んでいる。

#### ○「石見銀山愛護少年団」

大森小学校全校児童により、石見銀山遺跡が国の史跡に指定された昭和 44 年に結成され、春は地区の老人会と、秋は単独で、史跡と文化財の愛護・郷土美化のための清掃奉仕活動が続いている。 \*島根県学校生活協同組合HPより引用



写真-石見銀山遺跡愛護少年団

#### ○「NPO法人石見銀山協働会議」

平成 17 年、世界遺産登録を目指す石見銀山遺跡を官民協働により保全活用していくための方策を検討するため、公募による約 200 名の市民プランナーと島根県・大田市の職員により組織される。市民と行政の協働のもと、石見銀山の保全活用に取り組んでいる。

### 【行政】

#### ○「石見銀山世界遺産センター」

適切なガイダンスとともに、調査研究、資料蓄積、情報発信、保全管理活用、施設管理運営の各機能を担う。事業主体は大田市。平成 19 年 10 月石見銀山世界遺産センター開所(ガイダンス棟オープン)平成 20 年 10 月石見銀山世界遺産センター全面開所。誘客・広報事業、調査研究、遺跡の保全・管理(遺跡パトロール)、教育・普及を行っている。



写真-調査

#### ○クリーン銀山活動

石見銀山の維持・保全活動の一環として、3ヶ所の史跡指定地で草刈やゴミ拾いなどの自主ボランティア清掃活動。石見銀山世界遺産センター主催。 \*島根県大田市HPより引用



写真-クリーン銀山

\*写真出典：石見銀山世界遺産センターより  
島根県学校生活協同組合より

## □保存管理計画

- 平成 18 年 3 月 「石見銀山行動計画」策定。(石見銀山協働会議による)  
「史跡石見銀山遺跡保存管理計画」策定。
- 平成 19 年 3 月 「石見銀山遺跡拠点施設等整備基本構想」策定。  
「石見銀山遺跡拠点施設基本計画」策定。
- 平成 19 年 6 月 「石見銀山遺跡拠点施設展示基本計画」策定。
- 平成 19 年 10 月 「大田市石見銀山拠点施設の設置及び管理に関する条例」施行。

## □世界遺産への取り組み

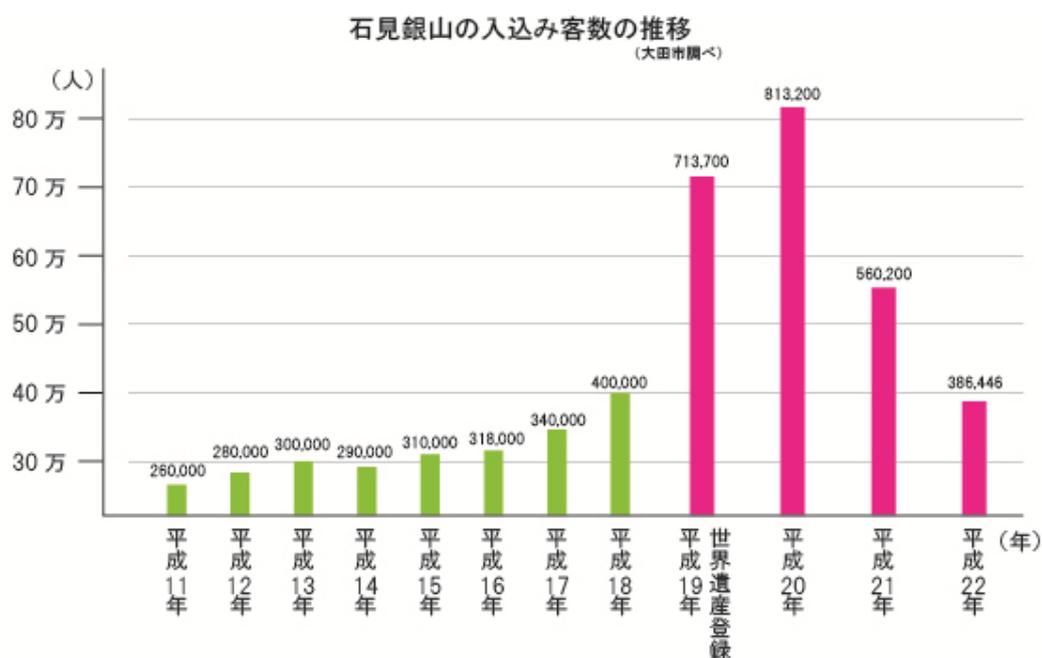
- 平成 8 年 「石見銀山遺跡発掘調査委員会」設置。
- 平成 9 年 「石見銀山遺跡整備推進委員会」設置。
- 平成 10 年 島根県に「文化財課世界遺産登録推進室」設置。  
大田市に「石見銀山課」設置。
- 平成 14 年 「石見銀山遺跡調査委員会」を設置。
- 平成 19 年 7 月 世界遺産一覧表に記載。
- 平成 20 年 2 月 石見銀山基金募金委員会設立。

### ○「石見銀山基金募金委員会」

石見銀山遺跡の保全活用活動への財源確保のため組織された。石見銀山遺跡を適正に保全・活用し、「世界の、そして人類の宝」として後世に引き継ぐための事業など、官民協働の資金として積み立てるもので、2008(平成 20)年 3 月に募集を開始。

募金活動期間は、2013(平成 25)年 3 月までの 5 年間で、総額 3 億円(島根県・大田市の積立分を含む)を目標。寄付金は、住民団体等が実施する保全・活用活動(保全・活用 6 つの柱)等への助成などに活用される。

## □観光入込客数の推移



## (2) 九州・山口の近代化産業遺産群

### □概要

九州・山口を中心とする近代化産業遺産群は、9エリア30資産で構成されている。それらの遺産群は鉄鋼・造船・石炭鉱業の重工業部門に西洋技術を移転する上で他に類を見ないプロセスを証明する、極めて重要な文化遺産群としている。

### □まちづくりの取り組み

多くの地域、団体で、まち歩き、語り部、出張講座、パネル展、セミナー等を行っている。

また、九州のNPO法人のネットワーク化を図っている。

NPO法人軍艦島を世界遺産にする会（長崎県）

NPO法人大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ

NPO法人まちづくり地域フォーラムかごしま探検の会

NPO法人北九州COSMOSクラブ

NPO法人熊本まちなみトラスト

NPO法人長崎居留地ネットワーク

NPO法人田川地区近代化産業遺産を未来に伝える会

NPOまちづくり研究会（佐賀県）



写真-大牟田荒尾炭鉱の町ファンクラブによるまち歩き企画



写真-（鹿児島県）まち歩き企画

### □保存管理計画

長崎市「長崎市南山手伝統的建造物群保存地区保存計画」策定。

唐津市「高取家住宅保存活用計画」策定。

大牟田市「大牟田市三池炭鉱宮原坑保存整備計画 基本計画及び基本設計」策定。

荒尾市「万田坑保存整備活用計画」策定。

宇城市「三角西港管理計画」策定。

北九州市「東田第一高炉保存・活用基本計画」策定。

他の構成資産については、今後本格的な保存管理計画を策定する。

また、包括的な保存管理計画については、文化庁や関係公共団体との連携のもと策定予定。

### □世界遺産への取り組み

- ・平成18年11月 6県8市共同で「九州・山口の近代化産業遺産」提案書を文化庁へ提出。
- ・平成20年10月29日「世界遺産登録推進協議会」設置。（現在は7県12市体制）
- ・平成21年1月5日 「九州・山口の近代化産業遺産群」がユネスコの世界遺産暫定一覧表\*に追加記載。

\*佐賀県HP、九州・山口の近代化産業遺産群HPより引用



写真- (山口県) 萩反射炉



写真- (福岡県) 三池炭鉱旧万田坑施設



写真- (佐賀県) 三重津海軍所跡



写真- (長崎県) 端島



写真- (熊本県) 三角西港

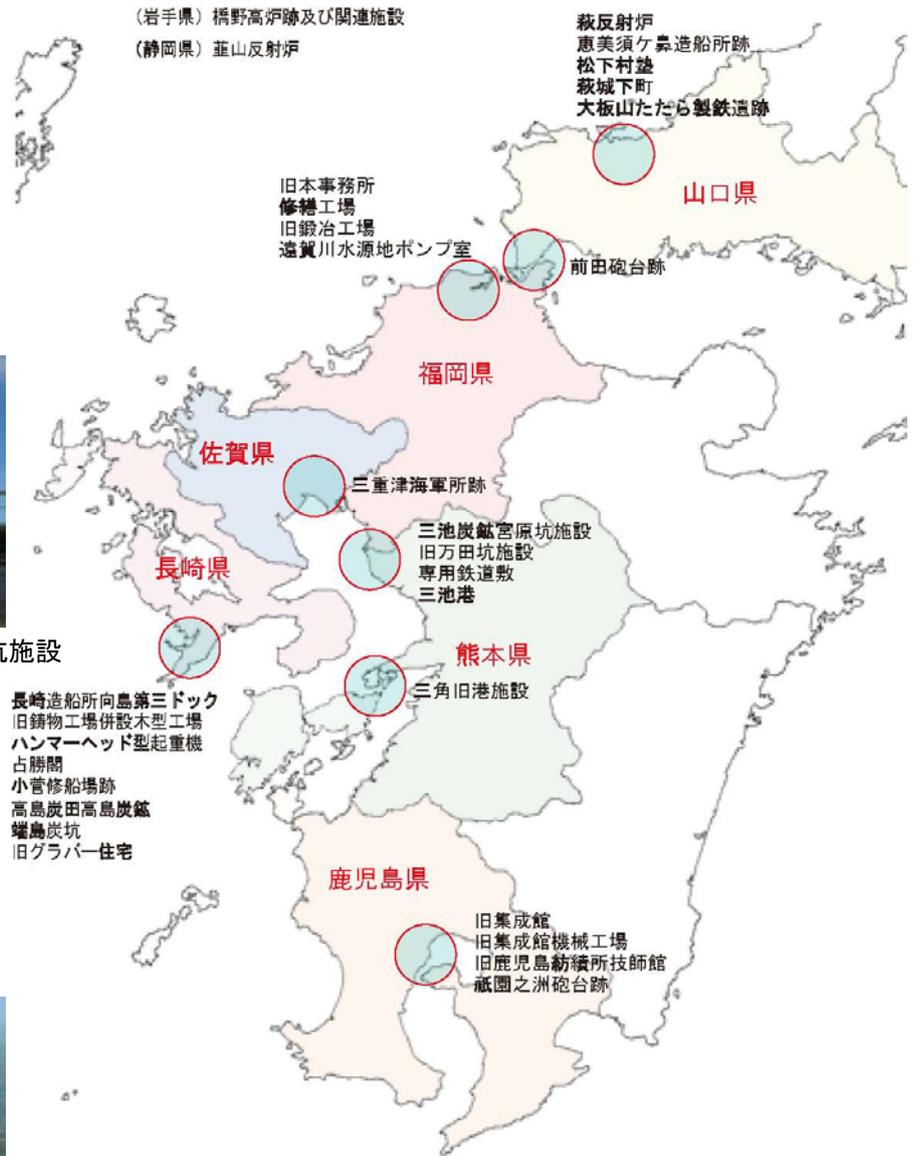


図-九州・山口の近代化遺産分布図  
(9 エリア 30 資産)



写真- (鹿児島県) 旧鹿児島紡績所技師会

\*写真出典：NPO法人大牟田・荒尾炭鉱の町ファンクラブ HP より  
\*写真出典：世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書、世界文化遺産国内暫定一覧表への追加提案書より

### (3) 金を中心とする佐渡鉱山の遺産群（新潟県佐渡市）

#### □概要

佐渡には、「西三川砂金山遺跡」「鶴子銀山遺跡」「新穂銀山遺跡」「相川金銀山遺跡」の4つの鉱山遺跡を中心に金銀鉱山が広く分布している。

史跡佐渡金山遺跡は、平成6年に策定された保存管理計画のもと、管理団体である佐渡市と所有者である株式会社ゴールデン佐渡が適切な保存管理を実施している。

#### □まちづくりの取り組み

調査・研究、指定・登録、整備、情報発信、市民活動の取り組みをしている。

人材育成事業、案内ガイドの育成、総合学習「佐渡学」、佐渡学センターの設立、各種講座、「佐渡観光・文化検定」などの取り組みを行っている。

市民団体「佐渡を世界遺産にする会」「鶴子銀山の道を歩こう」「佐渡金銀山古道を守る会」との連携。

史跡佐渡鉱山を観光施設として活用。（運営：株式会社ゴールデン佐渡）

#### □保存管理計画

○資産全体の包括的な保存計画

- ・対象は、構成資産および資産の一体をなす周辺環境とする。
- ・個々の構成資産が持つ特性と、構成資産相互の関係性に着目し、資産全体の保存管理と整備活用を実施する。
- ・継続的な保存管理を行うため、実施体制の整備充実を図る。

相川金銀山遺跡：佐渡奉行所復元、鐘楼、北沢地区・大間地区の一部整備。

#### □世界遺産への取り組み

- ・平成20年度 佐渡市に「歴史文化遺産群保存活用検討委員会」設置。
- ・平成22年2月 佐渡市に「世界遺産登録推進本部」設置。
- ・平成22年6月14日 「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」がユネスコの世界遺産暫定一覧表に追加記載。

\*佐渡金山日より、世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書より引用

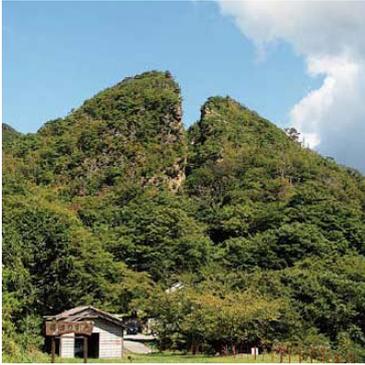


写真-（相川金銀山）道遊の割戸



写真-（相川金銀山）大立堅坑



写真-（鶴子銀山）  
発掘調査現地説明会



写真-（相川金銀山）シクナー（右）と  
整備された北沢工作工場跡



図-佐渡鉱山 主要鉱山分布図



写真-（市民団体）  
鶴子銀山に続く道を歩こう



写真-北沢浮遊選鉱場での音楽演奏



写真-（西三川砂金山）  
笹川で砂金採り体験

\*写真出典：佐渡金山だより

#### (4) 足尾銅山（栃木県日光市）

##### □概要

足尾銅山は栃木県西部、渡良瀬川の最上流に位置し、銅の採鉱～選鉱～製錬の過程を示す遺構、及び、輸送・交通、動力供給、環境対策、生活、教育等、銅山の経営に係る多岐に渡る施設が多く現存している。それらを「足尾銅山跡」として一体的に保全する「足尾銅山跡保存管理計画」を策定予定である。

##### □まちづくりの取り組み

全町地域博物館化構想。(エコミュージアムあしお創造)  
市民団体(NPO法人)「足尾に緑を育てる会」「足尾歴史館」との連携。  
宇都宮大学、お茶の水大学との共同研究、古河機械金属株式会社との連携。

##### □保存管理計画

重要文化財的景観の選定を視野に入れた検討の中で、資産全体の包括的な保存管理計画を策定予定である。

##### □世界遺産への取り組み

- ・平成19年4月 日光市教育委員会に「世界遺産登録推進検討委員会」設置。
- ・平成20年4月 日光市教育委員会に「世界遺産登録推進室」設置。
- ・平成21年5月 足尾地域に「産業遺産の保存・活用と環境学習推進協働会議」設立。

\*足尾銅山の世界遺産登録をめざしてHPより引用



写真-（国指定史跡）通洞坑



写真-（国指定史跡）宇都野火薬庫跡



写真-（登録有形文化財）  
古河掛水倶楽部

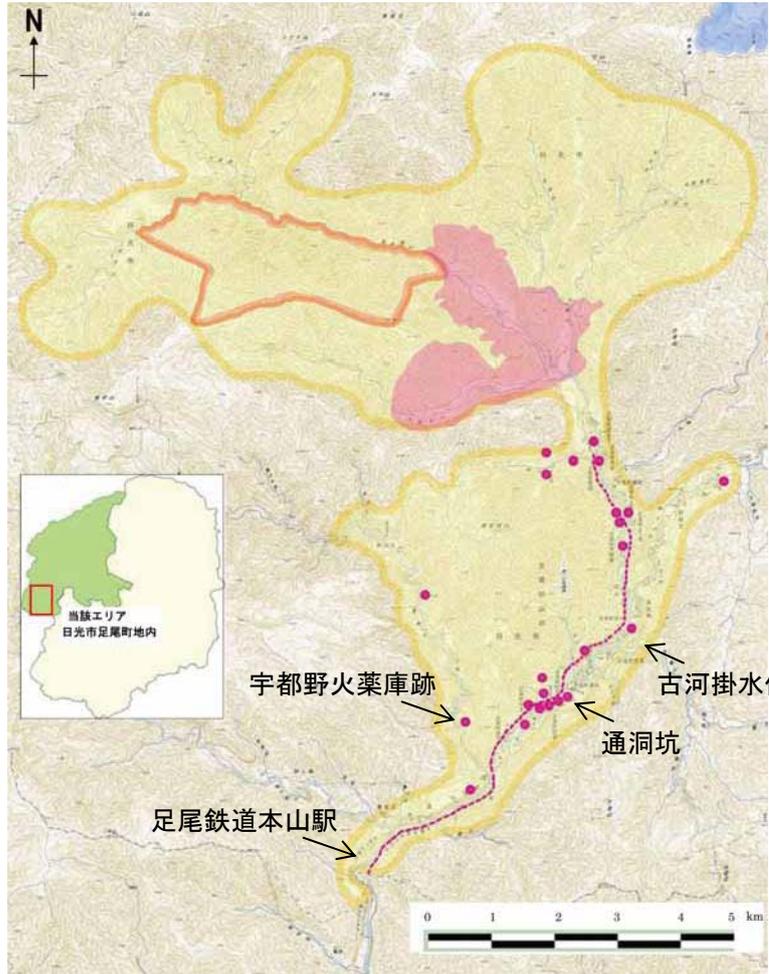


図-足尾銅山 資産位置図  
（世界遺産暫定一覧表追加記載提案書より編集）



写真-足尾鉄道 本山駅



写真-（市民団体）  
NPO法人足尾に緑を育てる会



写真-（古河機械金属株式会社  
足尾事業所）緑化活動

\*写真出典：世界遺産暫定一覧表追加掲載提案書

## (5) 富岡製糸場と絹産業遺産群（群馬県）

### □概要

富岡製糸場は生産地域における生産と生業の総体としての特徴を備え、「繰糸場」「東・西繭倉庫」「外国人宿舎」「ブリュナ館」など、明治政府が作った官営工場の中で、ほぼ完全な形で残っている。生糸の大量生産と共に、保存施設、養蚕の教育組織、組合関係の遺構、鉄道施設や倉庫、最古の養蚕農家、養蚕信仰の象徴などが点在している。

### □まちづくりの取り組み

各種調査・研究・広報等の活動。

富岡製糸場の資料収集・整備、関連遺産・文化財に関する調査、まちづくりの研究、イベント開催、パネル展、勉強会の開催。

市民団体「富岡製糸場世界遺産伝道師協会」「富岡製糸場を愛する会」「赤岩重要伝統的建造物群保存活性化委員会」「絹の道ぐんま連絡協議会」との連携。

### □保存管理計画

「六合村赤岩伝統的建造物群保存地区保存計画」策定。

「旧富岡製紙場保存管理計画」作成中。

「重要文化財碓氷峠鉄道施設保存管理計画書」策定。

構成資産全体の包括的な保存管理計画の策定予定。

### □世界遺産への取り組み

- ・平成16年11月 群馬県に「世界遺産推進室」設置。
- ・平成16年11月 群馬県に「富岡製糸場世界遺産登録推進委員会」設置。
- ・平成19年1月30日「富岡製糸場と絹産業遺産群」がユネスコの世界遺産暫定一覧表に追加記載。
- ・平成21年4月 群馬県に「世界遺産推進課」設置。

\*世界遺産暫定一覧表記載資産候補に係る提案書より引用

\*富岡製糸場-世界遺産推進-HPより引用

\*富岡製糸場と絹産業遺産群-世界遺産登録に向けて-HPより引用



写真-（史跡・重要文化財）東蕨倉庫



写真-（史跡・重要文化財）繰糸場（内部）



写真-（天然記念物）薄根の大クワ



写真-（重要伝統的建造物群保存地区）  
赤岩地区養蚕農家群



写真-富岡製糸場を愛する会



写真-富岡製糸場世界遺産伝道師協会  
世界遺産クイズラリー

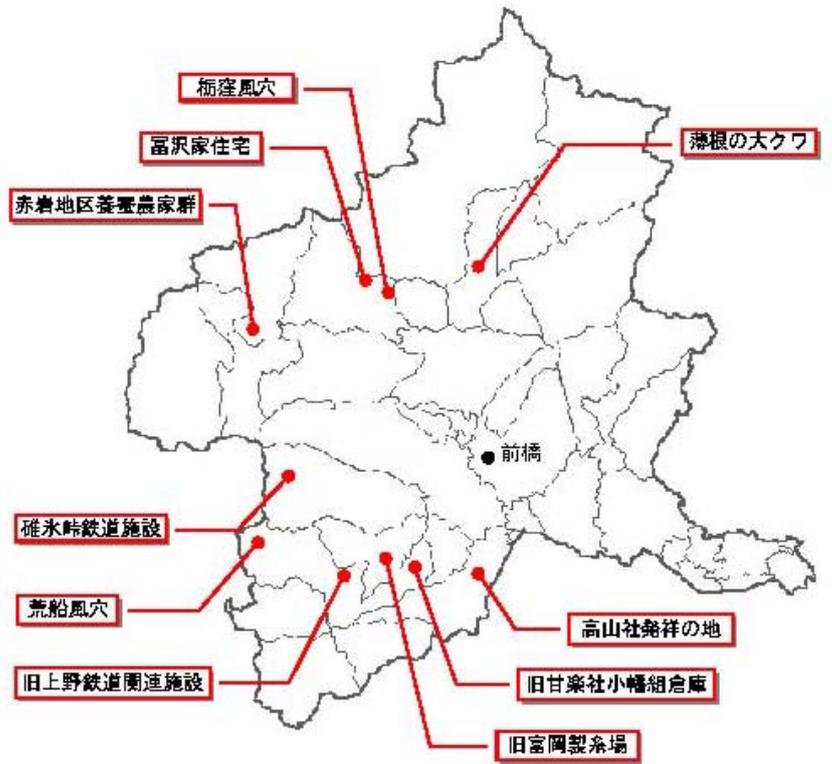


図-群馬県主要産業遺産位置図  
（世界遺産暫定一覧表記載資産候補に係る提案書より編集）



写真-富岡製糸場ライトアップ

\*世界遺産暫定一覧表記載資産候補に係る提案書より引用

\*富岡製糸場-世界遺産推進-HP より引用

\*富岡製糸場と絹産業遺産群-世界遺産登録に向けて-HP より引用